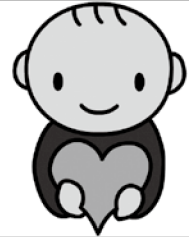


こころのトラボーション



スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

愛着障がいつて？

～虐待と脳の関係～

「愛着」というと、愛情が湧いてくることだったり、大好きなものを大切にしようという意味合いなのですが、「愛着形成」というとどんなことを想像しますか。これは文字通り愛着を作っていくという言葉で、赤ちゃんが生まれて養育者(多くの場合母親やそれに代わって子育てをする人)との信頼関係が愛着によって作られる、という意味で用いられます。乳幼児期の養育者との関係は、子どもにとって成長してからの自己肯定感や自尊心といった自己自身を認めることや、人との信頼関係を築いていく「核」のよきなものであるのです。

しかし虐待を受けて育った人が親になった時に、愛着関係を作りにくいということも明らかになっていきます。かわい

い、愛おしいはずの我が子を目の前にして、自分の虐待経験を思い出してしまう、可愛がられた経験や思い出が少ないために子どもとどう接していいのかわからない、など困難を抱えたまま孤立してしまう養育者もいます。そして残念なことに、そのつもりはなくても虐待を繰り返してしまうという悪循環が生じてしまうのです。

こういった愛着をつくれないう問題、生まれた直後から始まる子どもの「脳」の発達や成長に悪影響を及ぼすことがわかってきています。赤ちゃんの脳は養育者から大切にされる環境の中で、適切な刺激を受けることで日々成長していくのですが、養育者が子どもに対して愛着をもてない、成長に必要な声掛けや刺激を与えられない場合には、赤ちゃんの「脳」が成長しにくい状態になってしまいます(先天的に脳に障がいを抱えていない場合)。

最新の脳科学の見解ではこの乳幼児期の悪影響で脳機能が育たないために、子どもならでは「褒められよう」としたり、「何かの目的のために頑張ろう!」という意欲物質が分泌されにくいということも明らか

にされています。これは「愛着障がい」と「発達障がい」では背景が異なるために、関わり方や治療のプロセスが変わってくるということも明らかになってきています。愛着障がいは虐待を背景にした脳の機能障がいなのだと言えるのです。

では、そもそもどんなことが虐待なのでしょう。知っているようで意外と知らない虐待について、私たちにできることはあるのでしょうか。次回は虐待とその連鎖について深めていきたいと思います。

(出典:第34回日本心理臨床学会「発達障害とトラウマ」友田明美 福井大学)

図書館コーナー

◆中軽井沢図書館

イベントのご案内

◎映画鑑賞会

とき 11月3日(火・祝)

「リアル

完全なる首長竜の日」

10時から

「ビューゴの不思議な発明」

13時から

◎青木館朗読会

「文鳥」 夏目漱石 著

とき 11月14日(土)

14時から15時まで

◎子ども本の講座

「のびみワークショップ in かるいざわ」

絵本作家 のびみ氏

とき 11月15日(日)

13時30分から

定員 親子40組

参加料 無料(要予約)

※終了後にサイン会をおこないます。

◎おはなしツアーによる

「おはなしの会

テーマ 「家族」

とき 11月15日(日)

10時30分から

◎図書館友の会

「実験劇場」大人向けの英会話

テーマ 「旅行」

とき 11月21日(土)

13時から

「秋のラウンジ文庫フェスタ」

とき 11月17日(火)から

19日(木)まで

10時から17時まで

離山図書館

「ビブリオトーク」

とき 11月19日(木)

15時から

離山図書館

ところ

新しい本が入りました!

- | | | |
|-----------|----------------|---------|
| 陽だまりの天使たち | ソウルメイト2 | 馳 星周 著 |
| 怒鳴り癖 | | 藤田宜永 著 |
| スキン・コレクター | ジェフリー・ディーヴァー 著 | |
| 避難の科学 | 気象災害から命を守る | 古川武彦 著 |
| いろとりどり | マーカス・フィスター作・絵 | 谷川俊太郎 訳 |

※図書館のホームページで蔵書検索ができますので利用してください。

<http://www.library-karuzawa.jp/>

【問い合わせ】

中軽井沢図書館

☎41・0850